

令和8年度第1回倉敷市スポーツ推進審議会 会議録

日 時 令和8年5月29日（金）15時～16時50分

会 場 倉敷市庁舎3階 議会第2会議室

出席者 委 員：松井会長、宮川副会長、池田委員、石岡委員、佐藤委員、田中委員、長尾委員、箕口委員、野村臨時委員

事 務 局：伊東市長、大内局長、黒明課長、爲房課長補佐、青津主幹、安原主事、田邊主事

保健体育課：岡参事、槇野指導主幹、山本指導主任

障がい福祉課：田中主任

傍聴者 0名

1 開 会

2 委嘱状交付

- ・委員自己紹介
- ・会長、副会長の選任

松井会長、宮川副会長が昨年引き続き就任

- ・開会あいさつ 倉敷市スポーツ推進審議会 会長 松井 守
倉敷市長 伊東 香織

3 臨時委員選任

- ・作陽学園高等学校 校長 野村 雅之氏を臨時委員として選任
- ・委嘱状交付

4 議 事

議案第1号 倉敷市スポーツ都市宣言の策定について

【事務局説明】

- ・スポーツ都市宣言策定に至った経緯

令和8年1月に開催された審議会の中で、松井会長より「都市宣言の策定について」ご提言いただき、その場で委員の皆様の賛同をいただいた。

- ・宣言の内容について

ポンチ絵の草案を示したうえで、『倉敷市スポーツ基本計画』の基本方針の4つの柱をベースに、スポーツ分野以外も巻き込んだ内容にしたい。

- ・今後のスケジュールについて

レジュメ資料3ページをもとに、スケジュール（案）を説明。

【出席者意見】

伊東市長：スポーツを通じた交流やまちづくり、障がいの有無等に関わらず、みんながスポーツをできる、そういったまちづくりを目指したいという思いがある。本日は、皆様の各立場の視点から御意見をいただきたい。

本日の御意見を踏まえ、あらためて次回の審議会で諮問させていただき、詳しく御検討いただきたいと思っている。

松井会長：従来、スポーツは“競技スポーツ”“生涯スポーツ”として、自分たちが強くなる、健康になる、といったところが目的だったが、東京五輪を経て、スポーツの持つ力が社会にどれだけ寄与できるか、還元できるか、勇気を与えられるか、感動を呼ぶか、ということにシフトしている。そういうことも含めてスポーツ全般の価値観が多様化しているため、どうにかこの社会生活に落とし込んでいくことが、倉敷市ではとても必要になるのではないか。

また、「する・みる・ささえる」といったスポーツとの関わり方や、「生涯にわたるスポーツ活動の推進」「アスリートの発掘と育成」「スポーツを通じた地域社会の活性化」「スポーツ環境の整備」という『倉敷市

スポーツ基本計画』の4つの柱を通じて、本市のスポーツ文化を構築したい。本市の老若男女、障がいの有無に関係なく、「身体を動かすことはいいよね、スポーツっていいよね、心も豊かになる」という社会を目指したい。

宮川副会長：最終的な目標は倉敷市民のいわゆる「ウェルビーイング」ということだと思う。より良く生きるための一つの手段として、やはりスポーツを核としたものを使って、ウェルビーイングのための環境を整えていくことが想定される。

また、武道とスポーツを切り離さず、両者を近付けた概念があってもよいのではと考える。インクルーシブの考え方が必要。

他市でスポーツ都市を謳っている自治体がどれくらいあるのか。それらを参考にしながら、倉敷の特徴を活かした内容にすれば、現実的なものになるのではないかな。例えば医療福祉とスポーツをリンクさせるとよいのではないかな。

事務局：中核市のデータで一部調査中ではあるが、倉敷市を除く61市の内、10市がスポーツに関する宣言を行っている。

スポーツ都市宣言とつけているところもあれば、秋田市の「はずむスポーツ都市宣言」などの名称をつけているところもある。

函館市（スポーツ健康都市宣言）、秋田市（はずむスポーツ都市宣言）、山形市（スポーツ都市宣言）、いわき市（スポーツ都市宣言）、越谷市（スポーツ・レクリエーション都市宣言）、船橋市（スポーツ健康都市宣言）、長野市（スポーツ都市宣言）、松本市（音楽とスポーツ都市宣言）、松江市（スポーツ都市宣言）、久留米市（スポーツ都市宣言）が行っている。

箕口委員：倉敷市は同規模の市と比べ、大学が多いということであれば、そこを強みに、学生ボランティアだけでなく、学生が実際に企画の検討に参画するなど、大学との連携で、学生たちにとってもよい経験になると考える。

野村委員：スポーツツーリズムに実際に取り組んでいて、玉島に年間1万人を呼んでいる。他県では茨城県神栖市がスポーツツーリズムに力を入れており、年間35万人程度の宿泊客を呼んでいる。スポーツツーリズムに食文化などを組み合わせても、良い効果が生じると思う。

倉敷市は交通の便は非常に良いと感じる一方で、宿泊施設の少なさが課題と感じる。

また、スポーツツーリズムで県外国外から来られる人々と交流が生まれることで、児童や生徒にとって教育的効果も高いと思われる。

松井会長：スポーツを通じて、関係人口を増加させることで、経済波及効果をどんどん広げていくことも大事。

長尾委員：「する・みる・ささえる」を兼ね備えたものとして、大きな大会を誘致することが最も効果的である。一度に全競技を取り組むことは難しいため、一部競技から始め、他競技も応援することで盛り上がると思われる。

また、経済的なことと言えば、年配の方のほうがお金を使ってくれるので、年齢の高い方が出られる大会というのは貴重。

田中委員：「障がい者スポーツ」は、補装具が必要な競技が多く、例えば車いすは競技ごとに異なり、一台100万円近くするため、気軽に始めようとはならないので、気軽に体験できる環境を整えたい。

佐藤委員：福田公園のナイター設備が整うということについて、反響が高い。熱中症対策の観点からも、ナイター設備や空調設備などの施設環境の整備は大変重要になる。

石岡委員：中学校現場は部活動の地域展開について、混乱している。子どもたちの運動離れ、運動嫌いが進んでいる中で、スポーツを通じて“夢”をはぐくむことが大事。

池田委員：スポーツはこどもからお年寄りまで年齢関係なく重要なことである。子どものころにスポーツをやっていた人は、実務能力が高い傾向にあると思う。

また、児島・水島・玉島・真備などは利便性に課題があると感じるため、宿泊施設と合わせ、そのあたりが整理される必要があると感じる。

5 報告事項

報告第1号 「倉敷市スポーツ基本計画」における数値目標及び補助数値目標の進捗状況について

【事務局説明】

- ・時間の都合上、資料に目を通していただくことで報告に代える。

6 その他

運動部活動の地域展開について

【教育委員会】

- ・レジュメ資料7ページをもとに令和7年度の実証事業の報告及び洗い出された課題を説明。

【出席者意見】

松井会長：部活動の地域展開は、働き方改革の一環としても進んでいるが、まずは子どもたちを優先に考えてほしい。また、教育委員会、スポーツ振興課ともに従来の業務に加え、業務にあたっていると思うが、片手間で進めていいものではない。専門的な部署を立ち上げることを提案する。

【教育委員会】

岡 参事：昨年度から、教育委員会・スポーツ振興課・文化振興課が集まる機会を設け、今年度から本格的に検討会を立ち上げたが、集まれる回数に限られる。松井会長の言われる組織ができれば、そこで完結するので専門部署の必要性は感じている。

【事務局説明】

- ・ネーミングライツ募集について説明

7、 閉 会

閉会あいさつ 倉敷市スポーツ推進審議会 副会長 宮川 健

以上を令和8年5月29日開催の令和8年度第1回倉敷市スポーツ推進審議会の
議事録とすることに同意します。

令和8年 6 月26日

倉敷市スポーツ推進審議会

会長

 